

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月28日

有明海を望む高台に、デイサービス、有料老人ホーム、支援ハウス、高齢者専用賃貸、保育園等の施設があり、また、少し離れてはいるが、特別養護老人ホームもある。普段は、施設間の交流を行っているが、現在はコロナ感染症対策のため交流を中止している。保育園の運動場が、園から見える位置にある為、保育園児の遊ぶ姿や、運動会の練習風景を見ることが出来、喜んでいらっやいます。毎日、入浴の時間を設けているので、ゆっくりと、入浴を楽しんでいらっやいます。職員と利用者のふれあいの時間として、食後の時間を大切にしています。職員一同、皆様が明るく、元気に楽しく、その人らしく、暮らせるように支援させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年10月21日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは周囲に自然が多い高台にあり、有明海を一望できる場所に立地している。ホームに隣接して同法人が運営する有料老人ホームや、通所介護、保育所があり、保育園児の姿が見えることで入居者の喜びに繋がっている。愛野記念病院を協力医療機関とし、月1回の訪問診療や週1回の理学療法士の訪問があり、入居者が健康的に安心して生活できる環境が整っている。今年度の目標を感染予防と掲げ、外部者との接触の自粛、入居者、職員の体調管理の徹底、毎日の消毒、といった感染対策を徹底しておりホームで新型コロナウイルス感染症の感染が無く経過している。毎日入浴できるよう湯を沸かし、ほぼ全ての入居者が毎日入浴され、新陳代謝を促すと共に、清拭、歯磨きなどの身体ケアを通じた清潔保持と、日々の清掃やアルコール消毒を行い生活環境を清潔に保つよう留意している。職員間のチームワークも良く、職員は笑顔忘れずに業務を行い、その対応が入居者にも通じて笑顔が溢れ、ホーム全体が暖かい雰囲気にも包まれているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 花応園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす。 という理念を掲げていますが、コロナ感染症の為、地域との交流が、出来てない。	ホームの理念をもとに年間目標を定め、職員に周知し、業務に取り組んでいる。今年度の目標は「感染予防」としており、外部者との接触の自粛や、毎日の消毒を徹底することでホームでの新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の為、ここ数年、外部との交流は、できていない。 リモートによる会議や、研修に参加している。	コロナ禍以前は同法人のデイサービス事業所の利用者との交流や、近隣保育所で開催する夏祭りや運動会へ参加していたが、現在は自粛している。協力医療機関から理学療法士が訪問して行うリハビリも中止していたが、近々再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の行事は、全く参加できてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束や、利用者の状況報告、自己評価、外部評価の結果、研修報告等を行っています。	運営推進会議は感染状況に応じて構成メンバーが集合したり、書面会議に変更したりと、臨機応変に対応しており、ホームの活動状況を報告し、必要な要望、助言等を聴く機会を設けている。入居者家族は交代で運営推進会議に参加し、職員も交代で会議に参加し、意見交換を行いサービスの向上に活かすよう努めている。	運営推進会議を書面会議で開催する場合であっても双方向的な会議であることが求められることから、互いに意見を交わせる方法を工夫し、各構成メンバーから返信された質問や意見等とそれらへのホームの回答を、メンバーから意見がなかった場合も含め議事録に残し、会議録を作成することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査員の方や、運営推進会議の担当者には、伝えている。	市町村担当者和との連絡は法人の事務所職員が一括して行っており、適宜、連絡を取り合い報告や相談を行っている。市町村担当者が運営推進会議にも参加しており、率直な意見交換が行える場となっている。管理者は生活保護の方への対応など、各担当課職員と随時情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、グループホーム協会の研修に参加(リモート) 運営推進会議では、報告している。	職員はグループホーム連絡協議会が主催する研修会(身体拘束や虐待防止)へ参加し、スキルの向上を図り身体拘束を行わないケアの実践に努めている。入居者への言葉遣いが気になる場面があるが、その都度互いに注意し合いながら実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、グループホーム協会の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方はいらっしゃらない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方には、契約時に説明している。要望も、その時に尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いているが、ほとんど回答がない。	職員は入居者への日々の支援の中で会話を交わし意見を伺うようにしている。また、家族と電話や利用料の支払い等で来所した際に意見を伺っている。毎月、家族に宛て便りを発行し、入居者のホームでの様子などを報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議が出来る時は、行事や利用者の情報交換等行っている。	感染状況を考慮した上で職員会議を開催し、職員の意見を聴取している。日常業務を通じて管理者と相談しやすい環境にあり、職員から備品購入などの申し出に対しても迅速に対応している。職員の資格取得に対しても勤務体制を調整をするなど協力体制を整えている。	介護現場でのハラスメント対策の強化が求められていることを踏まえ、マニュアルの整備や相談窓口の設置、研修開催等、具体的に取り組むことでより良い職場環境と職員意見の反映に繋げることを期待する。また、虐待防止のための措置に関し、経過措置期間ではあるが、今後、委員会の設置、指針の整備、研修開催等、規定に定め取り組むことに期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思いどおりに、運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得試験等、受けるように声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加したり、役員会(リモート)に参加している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の施設利用者の入所がほとんどだが、他の居宅介護支援事業所からの相談、入所も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は、コロナ感染症の為、電話による相談のみ対応している。間には入られる居宅介護支援事業所の介護支援専門員の方とは、密に連絡を取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所からの相談がほとんどで、個人的に相談に来られることはほとんどない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌をうたったり、レクリエーションをしたりしながら、教えたり教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室については、家族に任せているが、コロナ感染症の為、面会を制限、居室に立ち入りを禁止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんど無い。デイサービスや他の施設の利用者の中には、近所の方や、知り合いの人がいらしゃるので、面会して頂いていたが、コロナ感染症の為、控えていただいている	新型コロナウイルスの影響により外部との交流を自粛している状況であるが、入居者、家族の希望に応じ、可能な方には馴染みの美容室に職員が同行する支援を行っている。コロナ禍以前は、友人、知人の面会も多くあった。今後、感染状況に応じて面会制限も緩和する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支えあえるように声掛けしている。場合によっては、職員が、間にいる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では、入院中面会がでない、状態の確認が取りにくくなっている。また、胃瘻、鼻腔栄養等、医療重視の方の受け入れができなく、退所になられる方が多い		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても、理解できない方もいらっしゃる。出来るだけ、表情や行動で理解、把握しようとしている。	入居時に、入居者本人及び家族より生活習慣やホームでの暮らし方の意向を確認し、確認した情報をもとに、職員が入居者と会話しながら意向や思いを把握している。把握した情報は個人記録へ記載し、職員間で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、話せる方は、本人の意向を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い、その日の体調や、心身の状態を見て過ごし方を判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を作成し、職員で話し合っている。	入居者より把握した情報をもとに、毎日の申し送り時に担当者が職員に意見を求め、毎月の会議の際に全職員で介護計画の内容について検討している。全職員が入居者の目標等を把握することにより、より適切なケアに繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしているが、個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自由に外出して頂いている。コロナ感染症の為、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通して、地域とつながるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。又、園 独自で愛野記念病院との関係を持ち、月一回往診をして頂いている。急変時や夜間の受け入れも、スムーズに対応して頂いている。	入居した後もこれまでのかかりつけ医を継続することは可能である。尚、毎月ホームの協力医が訪問診療を行っている為、ホームの協力医へ変更するケースが多い。受診する際には、職員が病院受診用に整理したファイルを持参すると共に、かかりつけ医へ入居者の状態を報告し、円滑な受診に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員で行っているため、情報交換も出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早く退院出来るように相談したり、地域連携室を尋ねるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、見取りに関するアンケートを実施したりしているが、職員としての看護師の配置がないため、現在、出来ない	ホームでは入居時及び必要時に家族へ看取りに対する意思確認書を提示し、意向を確認している。看取りに関する指針を整備し、看取りが行えるよう検討していたが、人員配置等により現在は看取りを行っていない。今後、人員が整えば看取りも行っていく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成している。職員全員が普通救命講習を、受講するようにしている。昨年度は、コロナウイルス感染症の為、講習会がなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練や、災害時の対応について話し合いを行なっている。	定期的に行う避難訓練には地域住民も参加し、協力体制を整えている。物干し竿と毛布を使った簡易タンカーを用いて訓練を行うなど、重度化した方にも対応できるよう備えている。非常口付近に入居者の必要な情報リストを配置し、避難時に迅速に持ち出せるよう工夫している。	有事の際はより迅速な対応や行動が求められるので、あらためて災害時の職員の役割分担の明確化や、避難場所を周知することが望ましい。また、BCP(業務継続計画)の策定を準備し取り組むことに期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになっているところや、厳しい声掛けになっている時がある。	管理者は日頃から職員の言葉遣いには気を配っているが、時折「座っていて」「ちょっと待ってて」など何気なく使ってしまうことがあり、管理者や職員同士が互いに注意し合いながら支援に努めている。コロナ禍で外部研修へ参加できていない為、参加方法等を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面も作っているが、重度化に伴い、決めることができない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望通りに行うことは出来ませんが、出来る限り対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものがほとんどで、家族が遠方の方などは、施設で対応している。また、髪についても、家族の方が、美容室に連れて行って下さる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲で色々手伝って頂いている。	入居者の残存能力に応じ、茶碗拭きやコップの片付けなど、できることを行ってもらっている。入居者が職員と一緒に梅干しを作ることで、入居者のやりがいや楽しみ事のある生活に繋げている。クリスマスには一緒にケーキの飾りつけを行うなど、食事を通して季節を感じてもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とは言えないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持って来て下さった物は、利用者全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、誘導している。できない方については、職員が介助している。また、義歯の方は、夕食後、洗浄液につけるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、記録をするようにしている。尿意便意のない方には、時間を見て誘導するようにしている。また、出来るだけ、布パンツにパットで過ごして頂いている。	入居者毎に排泄チェック表を用いてその方の排泄パターンを把握し、職員がパターンに応じた排泄誘導を行っている。夜間はオムツではなく、居室のポータブルトイレや共用トイレに誘導するなど、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行なっているが、ほとんどの方が下剤を処方して頂いている。様子を見て、医師と相談しながら、調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入浴出来るようにしている。声掛け、時間を置き何度か行い、拒否された方については、翌日声掛けするようにしている。	毎日入浴できるよう湯を沸かし、ほぼ全ての入居者が毎日入浴され、新陳代謝を促している。入浴を拒否する方には、タイミングや対応する職員を変更し、再度声掛けを行い、無理強いしない対応に努めている。ゆず湯なども行っており、入浴を通して季節を感じられるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ、行事等工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い全員とはいかないが、出来るだけ季節や地域の行事に応じて戸外に出かける様にしているが、今年度は、コロナウイルス感染症の為、ほとんど外出出来ていない。	コロナ禍により外部者が集まるような場所に行くことを自粛している。尚、近所へのドライブや、シーズンには花見に出かけている。家族が本人を連れて外出する際は、職員が支援方法等のアドバイスを行っている。ホームの敷地が広く、天候が良い時には日光浴もできる環境である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。夏祭りや、自販機のジュースを購入するくらいで、ほとんど購入することはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族からかかってくるが、手紙のやり取りを行っていらしゃる方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、有明海が見渡せ、すぐ下には、保育園のグラウンドがあり、園児の遊ぶ姿や、運動会の練習風景を見ることができます。周りには、花木が多く季節の花木を楽しむことができます。	共用ホールは毎日掃除機とモップを使用して清掃し、定期的に塩素系漂白剤やアルコール消毒液を使用した拭き掃除を行い、清潔保持に努めている。天気の良い時には居室の窓を開け、換気を行っている。ホールの窓からは保育所が見え、子どもの遊ぶ姿や運動会の練習風景等、入居者の楽しみの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを色々なところに置いており、それぞれに応じて好きなところに座って頂けるようにしている。居室に関しては、自由に出入りできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては、家族にお願いしている。持ち込みも色々です。	以前はベッドの位置が安全面のみを考慮する配置としていたが、センサーベッドの購入後は、入居者のADLや希望を考慮し、柔軟に配置できるようにした。居室には衣装ケースやハンガー、毛布など、入居者本人が使い慣れた物を持ち込んでもらい使用する事で、安心して居心地の良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて配置や補助具等を利用している。		